研究分野と学びの流れ

各テーマに沿った研究を実施

4年次は3年間に得た知識とゼミナールでの経験をもとに個別の問題を追究。実践活動などを通じて卒業研究をまとめます。

研究室に所属して専門性を高める

3年次からは研究室に配属され、事例研究、原書講読などのゼミナールを通じて専門的な知識と考え方を学びます。

基礎教養と基礎理論を修得

1年次では、知識の素地をつくるための科目として、外国語科目（英語、中国語など）と情報リテラシーを履修します。2年次からは、専門基礎科目を中心に、以降の研究活動に必要となる理論と知識を身に付けていきます。

4年次
3年次
2年次
1年次

卒業研究

研究分野〈2領域〉

生態環境領域
動植物・水・大気・土壌を含む生態系やハビタット（動物の生息地）を科学的に理解し、生物多様性保全、生態系保全を目的として、国内外のフィールドで実践的に学ぶ。

主な専門科目
- 物質循環学
- 生態環境保全学
- 自然復元論
- 自然環境調査法
- 環境緑地学
- エコロジカル・プランニング
- 環境分析演習
- ランドスケープ論

など

都市環境領域
自然の持つシステムを人工環境に取り入れ、快適な建築・地域・都市空間の実現をめざして学修する。

主な専門科目
- 都市・居住環境論
- 住環境システム
- 環境都市再生論
- 都市インフラストラクチャー
- 建築気候学
- 交通環境
- 住環境と人間行動

など

専門基礎科目
- 環境アセスメント概論
- 基礎生物学
- 地理情報システム
- 環境倫理　など

基礎科目
- 外国語科目
- 教養科目

環境創生学科の特徴

特徴1
自然科学を基本とする研究・教育に、実習や演習などのフィールド系科目を積極的に取り入れています。

特徴2
最新の情報機器や分析機器を用いて、環境情報の可視化技法や環境測定分野にも力を入れています。

特徴3
海外環境研修プログラムやオーストラリアプログラムなど、国際的に活躍できる人材の育成にも積極的に取り組んでいます。

めざせる資格
●測量士補　●自然再生士補　▲ビオトープ管理士２級　■技術士（環境・建設部門）　■生物分類技能検定　■環境計量士　■公害防止管理者　■GIS学術士　■環境アセスメント士（自然環境）　■環境緑化樹木識別検定　■造園施工管理技士　他

卒業後の進路は P.100へ▶

●…所定の単位を修得すると得られる資格（実務・研修・講習を含む）　▲…資格取得の際、試験科目の免除など、必要な条件の一部が免除となる資格　■…めざせる資格

▶教職課程・資格の詳細はP.81

4年間のカリキュラム

年次		専門基礎科目	専門科目 学科基盤科目	専門科目 学科専門科目［生態環境分野］	専門科目 学科専門科目［都市環境分野］	専門科目 卒業研究関連科目
4年次	前期					卒業研究
	後期					
3年次	前期	NPOとソーシャルビジネス 土地利用と法 都市気候論 環境情報可視化技法 合意形成論	環境都市関連法（2）	物質循環学	都市プランニング論 地域環境再生論 環境モニタリング技術	
	後期			エコロジカル・プランニング		★事例研究
2年次	前期	情報セキュリティ 社会調査 画像処理技法 環境教育 エネルギーと社会 公共経済学	ランドスケープ論 環境化学 測量学 測量学実習 環境法概論 建築環境学	環境緑地学 環境分析演習		
	後期	地理情報システム 食料問題と環境 環境アセスメント概論 キャリアデザイン 環境経済学 環境計量学	環境都市計画学 生態環境実習＊2 環境都市関連法（1） CAD基礎演習 都市環境データ分析演習	自然環境調査演習 自然復元論 保全生物学	都市インフラストラクチャー 適応的快適論	
1年次	前期	環境マネジメントシステム 温暖化の科学 統計学基礎 数学入門 環境基礎 画像処理技法＊1 基礎生物学	環境創生学入門 環境地理 ランドスケープ論＊1 環境化学＊1 都市環境学概論 生物分類学 建築環境学＊1	環境緑地学＊1		
	後期	マネジメント入門 基礎プログラミング演習 環境倫理 持続可能な消費 ミクロ経済学 環境統計学	環境数理学入門 ★図化表現技法 環境フィールド・計測演習 生態学概論		都市・居住環境論 建築気候学	

主な卒業研究テーマ
- 表参道・原宿地域の屋上緑化地および周辺市街地におけるチョウ類の生息状況評価
- 地域緑化が周辺の生物多様性に与える影響の解明
- 擦過傷予防の観点から見た都市大方式ハイブリッド芝の安全性に関する研究
- 地域コミュニティを活用した商店街衰退防止策の提案
- ネパールと日本の住宅における温熱環境に関する研究

授業PICK UP
★事例研究〈3年次〉
（ビオトープ・パッケージでのフィールド調査）

当学科では、3年次から研究室に所属し、3年次の事例研究と4年次の卒業研究との2年間、研究室にて研究します。事例研究では、既往文献調査やフィールド調査などの研究方法を学び、4年次の卒業研究に備えます。

授業PICK UP
★図化表現技法〈1年次〉

ランドスケープ・デザイン、緑化、造園、まちづくり、自然復元などのプロジェクトに必要なデザイン・設計の基礎を修得します。現実の3次元を2次元の紙に表現する空間デザイン技術の面白さと難しさを学びます。

※上記のほか、教養科目、語学科目などの学部・学科共通科目を設置しています。詳細はP.75をご覧ください。
■字は選択科目　■字は必修科目　■字は選択必修科目

カリキュラムは平成29年4月現在のもので、一部変更される場合があります。
※右上に＊1がついている科目はTAP参加者のみ1年次(前期)に履修できます。　※右上に＊2がついている科目は２年集中実習です。

専門的に学べる研究室

《生態環境分野》吉﨑研究室（緑地環境システム）
自然環境調査で緑の機能を明らかにし、緑の修復と保全、創出について研究

《生態環境分野》田中研究室（ランドスケープ・エコシステムズ）
野生生物ハビタットの復元、創造に必要なフィールド技術、評価、計画、政策を研究

《生態環境分野》咸研究室（環境化学）
生態系に欠かせない水の水質保全・環境保全のための汚染メカニズムを解明

《生態環境分野》北村研究室（保全生態学）
野外調査を中心に野生動物の生態を調べ、保全策を講じることを目的に研究を行う

《生態環境分野》横田研究室（都市生態計画）
生態系・緑・人の関係性を定量化・可視化し、一体的な計画手法、情報基盤を研究

《生態環境分野》飯島研究室（応用生態システム）
生態系機能と生物の適応能力を応用した地域環境を改善するための研究を実施

《都市環境分野》宿谷研究室（建築環境システム）
人を含む自然のポテンシャルを生かす建築環境を創生するための研究を実施

《都市環境分野》史研究室（スマート・エコシティ）
さまざまな技術を用い、安全・安心・快適・スマート・エコなまちづくりをめざす

《都市環境分野》室田研究室（居住環境・コミュニティ再生）
地域住民や来街者の意識や行動の把握分析を基に持続型の居住環境を創出する

《都市環境分野》リジャル研究室（建築・都市環境科学）
エネルギー使用が少なく、気候風土に適合した快適な建築・都市環境計画を研究

《都市環境分野》大西研究室（社会環境システム）
持続的な発展をめざし、環境と調和した社会システムを提案する研究を実施

研究の学び、研究室の内容は、 WEBをご覧ください▶